

【4年生】

	児童の現状の分析	授業改善の方針
国語	〈読解について〉 ○音読や読書に意欲的に取り組むことが概ねできている。 ○文学的文章では、人物の行動や言葉から気持ちを想像して内容の大体を読むことが概ねできている。 ○説明的な文章では、指示語が指す内容を正しく捉えたり、段落相互のつながりを考えて読んだりすることに課題がある。そのため叙述を基に筆者の考えを整理したり要旨を把握したりすることが十分にできていない。 ○語彙力や生活経験の差が大きく、比較的平易な言葉であっても、意味を正しく理解したり様子をイメージしたりすることに個人差が大きい。 〈書くことについて〉 ○文章を書くことに苦手意識を感じるなど、課題がある。 ○語彙力、表現力の個人差が大きく自分の思いや考えを適切に文章で表現することが難しい。 ○書いた文章を読み返す習慣が十分に身に付いていない。 〈漢字について〉 ○漢字の定着度は、個人差が大きい。	1 読むことについて ○授業や宿題等で継続的に繰り返し音読できるようにして定着を図るとともに、音読のめあてを設定し、児童が読みのねらいを意識して取り組めるようにする。 ○読書週間や「読書のあしあと」に、年間を通じて読了した本を記録させる本校の取り組みや、成増図書館と連携したブックトークの実施を通して、読書の幅を広げ、読書量や語彙量を増やせるようにする。 ○主語・述語、修飾語、助詞などの言語事項について指導を継続的に実施する。 ○「読み解く力」の育成について計画的に指導を積み重ねる。特に「係り受け解析」（主述関係・修飾被修飾の関係）、「照応解析」（指示語の読み取り）、「イメージ同定」（図表や絵や写真等と文の関係から読み取る）については国語における学習を生かして他教科の授業でも意識的に指導する。 ○意味調べの時間を十分に確保し、国語辞典を用いて分からない言葉を調べ、意味を正しく捉えたり、活用したりすることができるようにする。 2 書くことについて ○ICTを用いて互いの文章を見合い、評価し合うことで、相手意識をもってより良い文章を書こうとする意欲を育てる。 ○ポプラタイムを活用して10分間の視写を行い、文字を認識し理解する力を高めるとともに、文章を書くこと自体に慣れさせる。 ○手順を明確にした作文指導を行うことで文章を書くことへの抵抗感を少なくしていく。 ○主述の呼応、誤字、脱字等の表記の仕方といった表記上の観点を明確にして、書いた文章を読み返し修正する習慣作りをする。 3 漢字について ○学習した漢字を積極的に用いるとともに、宿

	○習った字を文章の中ですすんで書こうという意識に課題が見られる。	題等で継続的に繰り返し練習できるようにして定着を図るとともに、日常的に既習漢字の活用を促す。 ○調べたことを箇条書きや、見出しをつけるなど、整理して表現させる。
社 会	○調べたことをまとめる学習に対して、取り組み方に個人差が大きい。 ○単元全体の学習問題について、自分たちの生活と関連付けて考えることについて課題がある。 ○資料から必要な情報を読み取ることが十分に身に付いていない。	○白地図や年表、関連図など調べたことをまとめる多様な表現方法を経験させ、考え表現する力を伸ばす。また、まとめた記述内容について ICT 機器を活用してクラス全体で共有し、学び合いを重ねていく。 ○既習事項や児童の生活経験を生かしながら、学習問題を設定する。社会科見学や出前授業、ゲストティーチャーなどを活用し、地域や社会を支える仕事をしている人々の努力や工夫に気付かせる。また、地域社会の営みに目を向けさせるようにする。 ○資料の提示の仕方を工夫し、授業の中で資料を見るポイントを明確にして、読み取った情報を全体で確認する。
算 数	○東京ベーシックドリルの診断シートの結果は「整数のかけ算」「分数の表し方」「式による表現」「時刻と時間の単位」「二等辺三角形と正三角形」「表と棒グラフ」の正答率が低かった。 ○基本的な四則計算のやり方は理解しているが、正確さと計算にかかる時間の個人差が大きい。九九が十分に身に付いていない。3桁×2桁のかけ算や、わり算の筆算など、計算が難しくなったり手順が複雑になったりすると、ミスが増える。 ○自分の考えを、筋道を立てて説明したり図表や数直線を用いて表したりする力の差が大きい。また、思考力を問う問題・応用問題の正答率が低い。 ○分度器の使い方や図形の作図では、正確に作図したり角度を測ったりすることが十分に身に付いていない。	○ポプラタイムの時間にベーシックドリルを活用したり、授業の中で基礎的な計算問題に取り組む時間を設けたりし、計算能力の定着を図る。特にベーシックドリルの正答率が低かった単元の問題については、繰り返し復習する。また、家庭学習でもすららドリルを活用して学力の定着を図る。 ○既習事項を活用し、解決の見通しをもつ活動を重視する、その上で、自分の考えを図や表、式、数直線などを使って表現する活動に、繰り返し取り組むようにする。また、自力解決や集団解決を通して思考力や表現力を身に付けさせていく。 ○授業の中で、定規や道具を使う活動を意図的に作り、正しい使い方が身に付くよう繰り返し指導する。
理 科	○理科の実験や観察などには興味をもって取り組んでいるが、結果から考察し	○実験や観察を始める前に、問題や課題を明確にし、予想を基にそれを確かめる手法を考え

	たりまとめたりする力は弱い。 ○抽象的・概念的な事象に対する理解が難しい。 ○基本的な実験・観察の技能が十分に身に付いていない。	させる。その上で実験や観察を行い、予想について、自分たちの言葉で考察したり、まとめたりする活動を継続して行う。またタブレット端末を活用することで、自分や他者の意見をより効率的に交流できる環境を整え、自らの考えを広げられるようにしたい。 ○動画や具体物を提示して、視覚的に理解が深められるようにする。また、学んだことを自分の言葉で説明したり、表現したりする活動を意図的に設定する。 ○実験前に、道具の使い方や安全についての指導を確実に行う。危険度の高い活動では、必ず演示を行う。特に、加熱器具の指導は丁寧に行う。
音 楽	○明るく意欲的に授業に取り組むことができる。 ○美しい声に憧れをもち、豊かな響きのある声で歌える。 ○私語が多く、集中力が途切れてしまうことについて課題がある。	○児童にとって分かりやすく、意欲的に取り組めるような教材を工夫する。また、頑張っている部分をその都度褒め、更に高い目標をもてるように指導する。 ○常に綺麗な声で歌えることを目標とし、基礎的な発声法や歌い方、言葉の扱い方などについて繰り返し指導する。 ○今何をすべきかと端的に伝えるようにしたり、児童が意欲をもって学習できるよう、学習活動や形態を工夫する。
図 工	○進んで表現したり鑑賞したりする活動に取り組むことができる。しかし他者意識が低く、自分の活動が優先してしまうことも見られる。 ○造形遊びをする活動の経験が少ない。 ○形や色などを基に、自分のイメージをもち豊かに表現する児童が多い。自然が多い環境で育まれているので実体験の中からテーマを生み出すことができる。 ○表したいことに合わせて表現を工夫できる材料や用具の経験が少なく、表したいことに合わせて知識技能を生かすことに課題がある。 ○体全体で表現することを楽しめることができる。しかし、指先を使い細かい表現の経験が少ない。	○鑑賞を取り入れ、自分の活動を振り返りたり自他の表現の違いに気付いたりする経験を増やしていく。 ○造形遊びなどの自分たちで活動をつくる経験を通して、材料や環境、友達同士の関わり合いを増やしていく。 ○自分の感覚や行為から自分なりのイメージを生み出すため、じっくり見る、触る、などの感覚的行為の充実を図る。 ○手や体全体の感覚を働かせ、表現活動に取り組む児童を増やすため指導の充実を図る。 ○系統的に材料用具を活用できるよう、またテーマを自身で考え表現できるよう、計画的な年間計画を設定する。
体 育	○意欲的に活動することができる。	○児童自身が活動する時間を確保できるよう

	○運動の技能についての能力差が大きい。 ○技能の定着について課題がある。	に、準備や説明などの時間を短縮できるように留意する。 ○自分の能力に合わせて、活動ができるようにルールやめあての設定を行い、無理なく楽しんで参加できる場をつくる。 ○手本となる動画を視聴したり、動画を撮影して自分の動きを分析したりするなど、ICTを活用して児童自身が客観的にイメージをもてるようにしたい。
道 徳	○登場人物の気持ちの変化や葛藤を捉えることができている。また実践しようとする態度も見られる。 ○自分自身が経験したことのない事象に対する理解力や考える力に課題が見られる。	○自身の経験を想起させつつ、他者の意見を聞いたり、立場や視点を変えて問いかけたりすることを通して、多様な考え方があることを意識させる。また既習の価値項目と日頃の生活場面を結びつけてより実践的に行動できるよう意識させる。 ○ICTを活用して写真や動画、具体物などを見せ視覚的にイメージがもてるようにしたり、体験的な活動を取り入れたりする。
総合的な学習の時間	○「課題設定」の過程では、主体的に課題を設定することに大きな課題がある。 ○「情報収集」の過程では、インターネットに頼ることが多い。 ○「整理・分析」の過程では、得た情報をそのまま使用することが多く、図や表等に整理することが難しい。 ○「表現・まとめ」の過程では、相手意識をもち、意欲的に表現することができる。	○教材や学習活動等を工夫し、困り感や切実感があり解決の必然性がもてる課題を捉えられるようにする。主体的・探究的に追究できるようにする。 ○「情報収集」には、本や図鑑、インタビュー、見学など、様々な手段があることを紹介する。 ○ゲストティーチャーを依頼し、生きた情報を得ることで課題解決への糸口を見つけさせる。 ○収集した情報から必要な事柄を取捨選択できるよう、目的意識・相手意識を明確にさせる。 ○課題解決のため、協働作業の大切さに気付かせる。 ○課題解決内容を、学校にとどめておかず地域の方に提案する等、地域に広げていく。
外国語活動	○外国語への興味・関心が高く、意欲的に取り組む児童が多い。 ○歌やゲームを通して、発音できる単語や文章はあるが、日常生活に生かせる程は定着していない。	○学習への興味を持続させるため、授業の導入で、挨拶・曜日・天気など基本的な日常会話を発音する場面を設定する。 ○表現の定着を図るため、デジタル教科書を使って歌やゲームに繰り返し取り組ませる。日常生活に生かせるよう、外国語活動以外にも外国語で質問を投げかける。

